

第 章 食肉の購入構造

1 食肉市場の構造(食肉比較)

1. 食肉の購入構造

図表 -1 食肉の購入構造

	国産和牛	和牛以外の 国産牛	輸入牛肉	豚肉	鶏肉	挽肉	
一世帯当たり平均購入金額 (円/全世帯)	280.2	61.0	85.8	421.8	201.5	100.1	
購入世帯率(%) (購入世帯/全世帯)	17.8	6.7	12.3	60.8	39.6	23.6	
購入世帯当たり購入量 (g/購入世帯)	449.9	399.1	473.1	530.0	565.2	398.8	
平均購入単価 (円/100g)	350.0		228.0	147.5	130.9	90.2	106.8

1) 全体

市場規模のレベルを表す一世帯当たり平均購入金額をみると、「牛肉」が426.9円、「豚肉」が421.8円、「鶏肉」が201.5円、「挽肉」が100.1円となった。

牛肉の内訳は「国産和牛」280.2円、「輸入牛肉」85.8円、「和牛以外の国産牛」61.0円となっている。

「豚肉」の購入世帯率は60.8%、購入世帯当たり購入量は530.0gで、「牛肉」(それぞれ34.1%、484.7g)を上回るが、「牛肉」は平均購入単価が258.9円/100gと、「豚肉」の130.9円/100gの2倍近くになっているため、一世帯当たり平均購入金額で「豚肉」を上回る。中でも「国産和牛」の平均購入単価は350.0円/100gと突出している。

「鶏肉」は平均購入単価が90.2円/100gで最も安く、購入世帯当たり購入量が565.2gと最も多い。

1 食肉市場の構造(食肉比較)

1. 食肉の購入構造

2) 牛肉

「牛肉」は購入世帯率が34.1%、購入世帯当たり購入量が484.7gで「豚肉」を下回ったが、平均購入単価は258.9円/100gと「豚肉」の2倍近い水準で、一世帯当たり平均購入金額が426.9円と最も高くなった。(別添図表 -2牛肉の購入構造参照)

牛肉の内訳をみると、購入世帯率が高いのは「国産和牛」(17.8%)だが、購入世帯当たり購入量が多いのは「輸入牛肉」(473.1g)である。「国産和牛」の平均購入単価が350.0円/100gと高水準であるのに比べ、「輸入牛肉」(147.5円/100g)は「豚肉」(130.9円/100g)とあまり変わらないことも一因となっている。

3) 豚肉

「豚肉」は平均購入単価が130.9円/100gと「牛肉」の半値程度で、一世帯当たり平均購入金額は421.8円と「牛肉」を下回ったが、その差は5.1円とわずか。購入世帯率は60.8%、購入世帯当たり購入量が530.0gと高く、量的には一番買われている肉である。

4) 鶏肉

「鶏肉」の一世帯当たり平均購入金額は201.5円で、「牛肉」(426.9円)、「豚肉」(421.8円)の半分以下である。購入世帯当たり購入量は565.2gと最も多いが、平均購入単価は90.2円/100gと100円を下回る。購入世帯率は39.6%で、「牛肉」(34.1%)と同程度である。

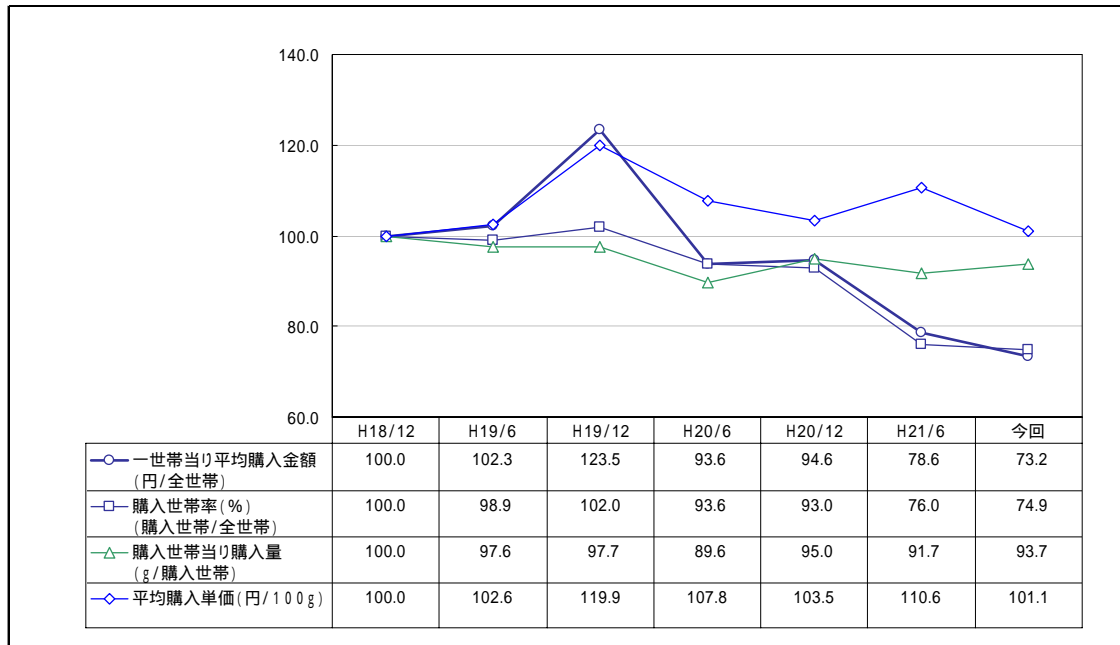
5) 挽肉

「挽肉」の一世帯当たり平均購入金額は100.1円で、「牛肉」(426.9円)、「豚肉」(421.8円)の4分の1、「鶏肉」(201.5円)の2分の1程度である。平均購入単価は106.8円/100gと「鶏肉」(90.2円/100g)を上回ったが、購入世帯率は23.6%、購入世帯当たり購入量は398.8gと最も少ない。

2 食肉市場の構造変化

1. 牛肉の購入構造の変化

図表 -2 牛肉の購入構造の変化



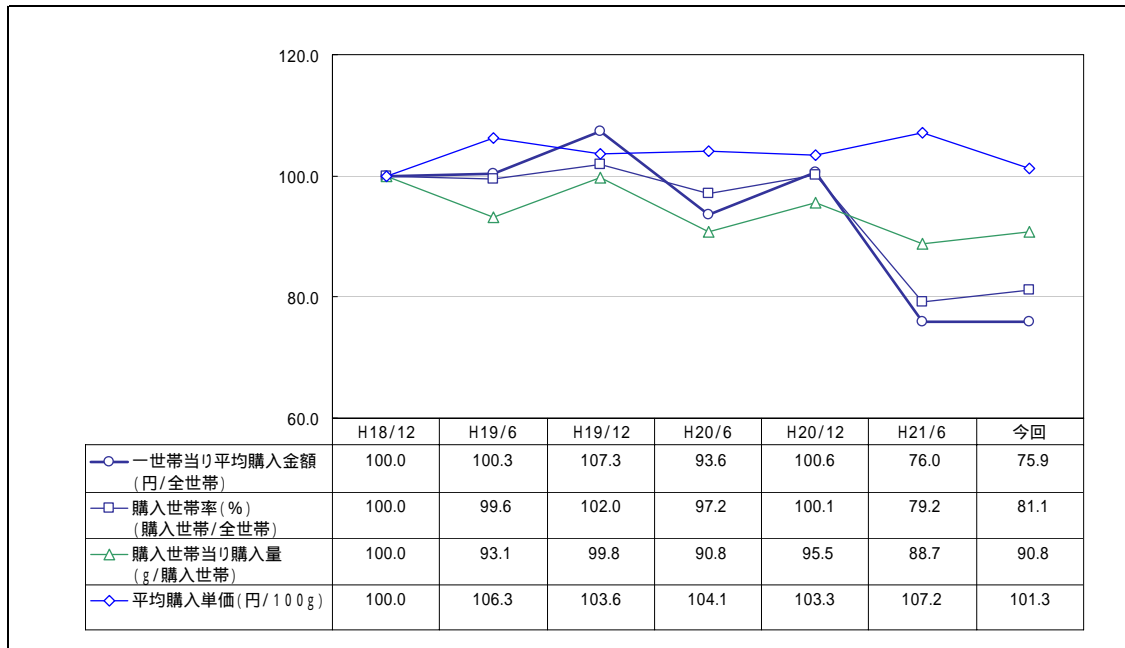
牛肉の市場規模を示す「一世帯当たり平均購入金額」は、平成19年12月調査をピークに減少傾向にあり、今回の調査では過去7回の調査と比べて最も低いレベルとなった。

「購入世帯率」もややスコアを下げたが、「購入世帯当たり購入量」はやや上昇している。「平均購入単価」は前回上昇したが、今回は低下し、平成19年6月調査以降で最も低くなっている。牛肉購入世帯でも低価格志向が表れている。

2 食肉市場の構造変化

2. 豚肉の購入構造の変化

図表 -3 豚肉の購入構造の変化



豚肉の市場規模を示す「一世帯当たり平均購入金額」は、平成20年6月に一度大きく下降し、平成20年12月に再び上昇したが、前回の調査で急落した。今回は前回と同水準のまま推移している。

「購入世帯当たり購入量」は、冬に上がり夏に下がるという季節変動が引き続きみられるが、今回は伸びが小さく、前年冬期の水準には届いていない。季節変動しつつ、徐々に下降しているといえる。「購入世帯率」も前回大きく下がったが、今回はわずかな回復にとどまった。

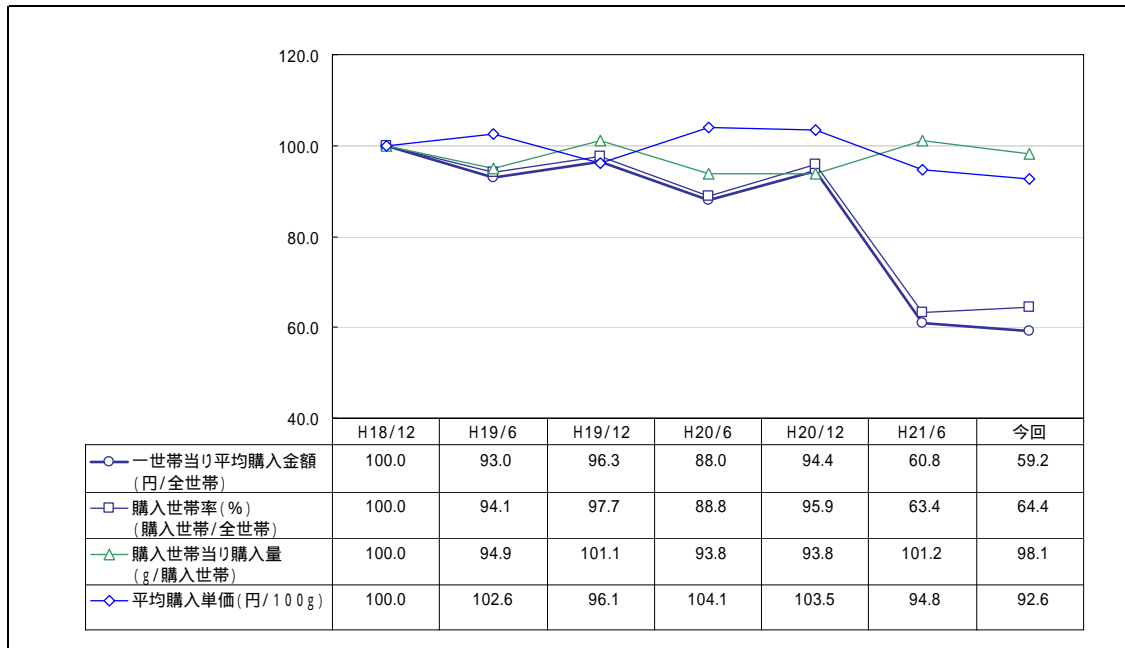
「平均購入単価」は前回上昇し、過去の調査の中で最も高い水準になったが、今回は低下している。

前回は各指標が低下したものの、「平均購入単価」は高く、高級豚肉が購入されていると推察されたが、今回の結果からは低価格志向がみられ、購入量も減少傾向がうかがわれる結果となった。

2 食肉市場の構造変化

3. 鶏肉の購入構造の変化

図表 -4 鶏肉の購入構造の変化



鶏肉の市場規模を示す「一世帯当たり平均購入金額」は前回急落したが、今回はさらに微減した。

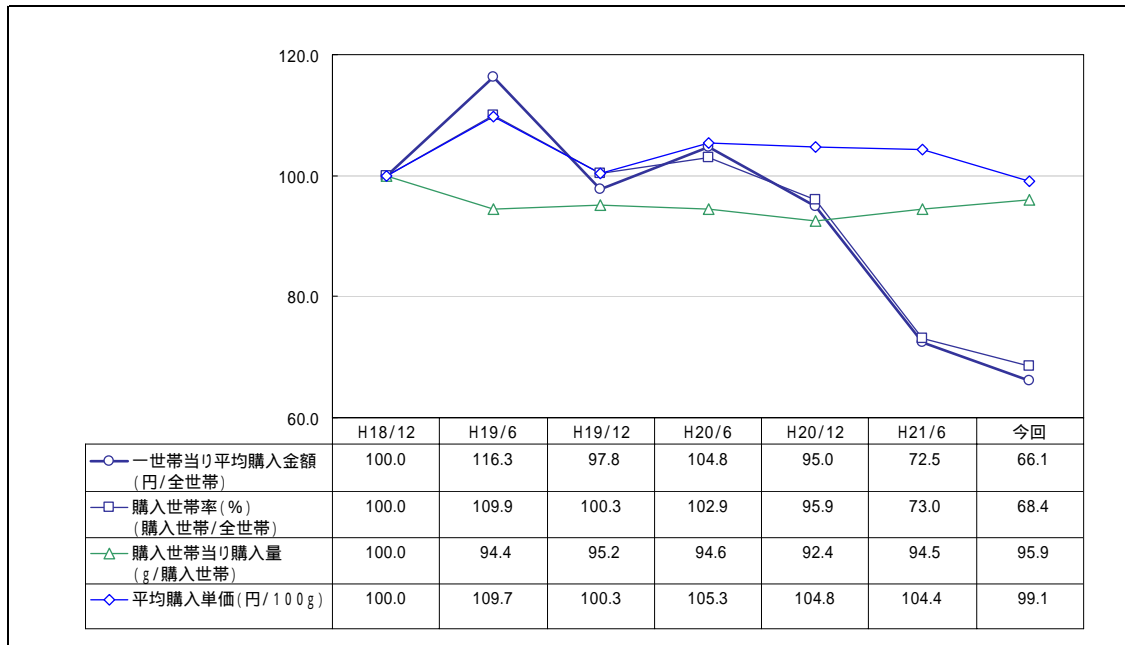
「購入世帯率」も前回大幅に低下し、今回も同水準のまま推移しており、回復には至っていない。「購入世帯当たり購入量」は前回上昇したが、今回はやや低下した。「平均購入単価」も前回低下したが、今回もさらに低下している。

前回は、より安い鶏肉を求めて多く購入しているものと思われたが、今回は低価格志向がさらに強まり、購入量にもややかげりがみられる。

2 食肉市場の構造変化

4. 挽肉の購入構造の変化

図表 -5 挽肉の購入構造の変化



挽肉の市場規模を示す「一世帯当たり平均購入金額」は、夏に上がり冬に下がるという季節変動がみられたが、夏の調査であった前回調査でも豚肉や鶏肉と同様急落し、今回はさらに低下している。

「購入世帯率」も前回大きく下がったが、今回さらに低下した。「購入世帯当たり購入量」は前回に引き続き微増しており、比較的安定している。「平均購入単価」は平成20年6月から前回までは横ばいだったが、今回は低下し、過去7回の調査と比べて最も低い水準になった。

挽肉についても低価格志向があらわれ、より単価の安い挽肉を多く購入している状況がうかがえる。